

～今治版ネウボラ拠点施設を考えよう～

参加者 人数：9人

1

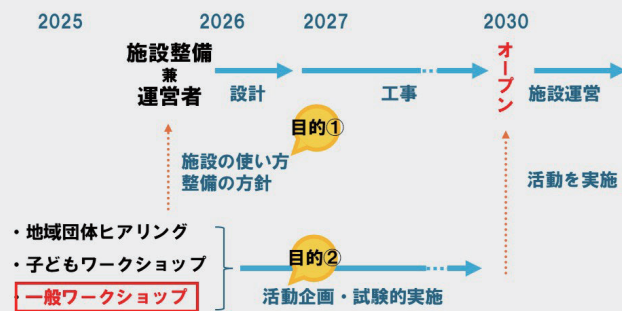
ワークショップの趣旨

事務局からワークショップ趣旨の説明がありました。

現在、2030 年のオープンを目指して、今治版ネウボラ拠点施設の整備を進めています。今後は施設整備兼運営者の決定するために、施設の利用イメージを具体化し、設計条件を設定している段階です。今回のワークショップは、その第一歩として、地域のアイデアや思いを伺いながら、設計や運営に活かしていくことを目的としています。また、オープンまでの間、商店街や既存のオープンスペースなどを活用し、実際に試行的な取り組みを行っていくことも視野に入れています。

ワークショップについて

- ・今後、施設整備兼運営者を決定
- ・設計するための条件 / 今後の活用法を検討



ワークショップの参加者に、ワークショップを活用しながら施設整備を進めた事例として立川市こども未来センターを紹介しました。

事例紹介：立川市こども未来センター（東京都）

施設の概要

立川市こども未来センターは、旧市役所庁舎を改修し、2012 年に開設された複合施設。市民活動や子育て支援を目的に、行政と民間が連携して運営している。市役所移転後の地域活性化の拠点となっている。

施設の特徴

子育て支援と市民活動支援を統合し、一時預かり保育やこども家庭支援センターをワンストップで利用が可能。貸室機能、アトリエ、スタジオを備え、多様な市民活動を支える。

施設整備のプロセス

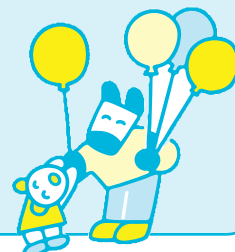
施設整備にあたり、市民の意見を反映するため「100 人委員会」が設置された。市民が話し合い、施設の用途や必要な機能について提案を行い、その意見をもとに行政が整備を進めた。また、運営面では行政主導ではなく、民間事業者と市民が協働する形を採用し、柔軟な運営が可能となった。

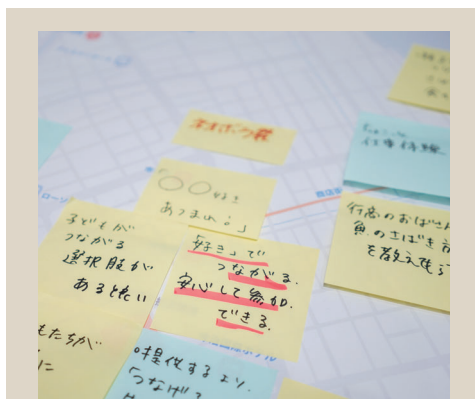
ワークショップの展開と学び

開設前からワークショップを実施し、市民と施設運営ルールを検討した。オープン後も運営に関するワークショップや市民団体の活動支援を継続している。特に、施設を単なる「場所」ではなく、市民が主体的に活用する「場」として機能させる重要性が確認された。

ワークショップでの具体的な学びとして、以下の点があげられる

- ・施設運営における市民参加の意義と継続的な関与の必要性
- ・多様な世代が関わることで生まれる新たなネットワークの価値
- ・柔軟な施設運用による市民活動の広がりや地域とのつながりの強化





こどものワークショップの結果を見ながら意見交換

ワーク①：こどもワークショップの感想

2025年2月に実施したこどもワークショップの内容を共有し、それを受けて参加者たちからさまざまな感想や意見が集まりました。多くの参加者が驚いたのは、こどもたちの主体性のある意見でした。「小さい子に勉強を教えたい」「カフェを中高生で運営したい」といった発言に感心する声が多く、「大人と一緒に何かしたい」という思いにも共感が集まりました。それらの意見を受けて参加者たちからは、「施設全体を使った体験の機会」や「こどもが企画・運営できる仕組み」が必要だという意見が出ました。

ワーク②：どんなこどもに育ってほしい？

「こんなところ育ってほしい」「こんなふうにこどもたちに関わりたい」といった視点で話し合いました。

<こんな風に育って育ってほしい>

- ・こどもたちが自分の意見を自由に言えるようになってほしい
- ・自分で企画し実行する力を身につけてほしい

<こんな風にこどもたちに関わりたい>

- ・大人自身も音楽や和楽器にふれる機会をつくることのできる
- ・盆踊りなど一緒に音楽を演奏・企画したりする



ワーク③：まちでこどもたちとできると楽しい活動とは？

施設をつくっていく上で大切にしたいことや取り組んでみたいことを話し合いました。

1 班

大切にしたいこと

- ・こどもが心理的に安全、かつ自由に意見を言える場の確保
- ・「好き」でつながる、安心して参加できる環境づくり
- ・こどもが運営に関わる仕組みづくり
- ・必要なサービスに「つなげる」ことがあってこそ体験の提供

2 班

大切にしたいこと

- ・相談窓口・案内窓口を多様な対象に開く（こども・親子・親）
- ・親子の心の支援ができる場の整備
- ・多少危険なことでも経験できる機会の提供
- ・こどもが主体的に活動する仕組み（企画書作成・大人への交渉体験）



こどもたちと取り組んでみたいこと

- ・「おしえて!○○○」質問箱・バーチャル相談室の設置
- ・参加できないこどもの意見を引き出す仕組み（オンラインの話し合いの場などの提供）
- ・マイクラフトを活用した情報交換の場づくり
- ・こども向け施設・活動情報の共有
- ・まちなか活動や施設情報の発信（リアル / オンラインともに）
- ・まちなかでのちょこっと仕事体験（商店街）
- ・犯罪でない範囲で多少危険なことでも経験できる機会の提供
- ・ネウボラ祭の開催（施設での協働イベント）
- ・今治のスキルのある人の教室（魚のさばき方、商店の人など）

ハード整備に関わること

- ・相談窓口・案内窓口を施設の最初の入口に配置
- ・こども専用のスペースを確保
- ・ネウボラ施設のサテライト拠点を設置（施設がない校区への展開）
- ・調理施設やワークスペースの設置（はーばりーとの連携）
- ・Eスポーツ環境の提供
- ・ネウボラ施設隣接の公園でのイベントスペース整備（テント・ツリーハウス・焚き火スペース）
- ・多目的な活用ができるオープンスペース（音楽、防災、夜間の高校生利用）
- ・災害時の活用を考慮した施設計画
- ・児童館・公民館の活用・連携強化

大人の役割

- ・相談所的な役割を持つ橋渡し役の確保
- ・ジャンルごとに相談できる大人の登録制の導入
- ・パパのコミュニティ（おやじの会）
- ・定期的な大人のメンバー入れ替え



発表

ワークショップの最後には、各グループの意見を共有しました。参加者一人ひとりの思いが伝わってくる発表の機会になりました。



アンケート感想

ワークショップ終了後に、参加者に書いていただいたアンケート（一部）を紹介します。

印象的だった言葉やアイデア

- ・こどもの施設だけど、大人も試される。
- ・ネウボラ施設に来ることができるこどもと来ることができない子を分けて考える。
- ・エントランスの活用方法。多機能なオープンスペース（吹奏楽、ジャズミニコンサート、ダンス（おんまくなど）各種イベント）や防災への活動。
- ・カフェも多機能に（調理実習、料理教室自由に）

